

「公共事業」無駄の議論は、どのように活用するかといったインフラの本質的な議論からズレている。日本人は時間軸思考が不得手。欧米人が過去から未来への時間軸上の点として現在を捉えるのに対し、日本人は「現在重視」。現在の事象には上手に対応できるが、グローバル化などゆっくり変化する物事はよくみえない。インフラの整備には時間がかかる。計画時点の考え方やその後の情勢の変化を適切に捉える眼が必要だ。

地球的規模の人口増とグローバル化の進展。世界の主要国では、こうした将来予測を視界に入れて交通ネットワーク等のインフラ整備を考へ、合わせて、国際市場を勝ち抜くための技術力を育てるといふ国家的戦略に沿って、公共調達のあり方を模索している。一方わが国は…。

海外の事例を紹介しながら、著者は、価格重視の競争がもたらす弊害や公共事業批判の世論を冷静に見極め「グローバル化時代のインフラ整備と公共調達のあり方を国家的戦略として構築していかなければ、国力の衰退につながる」と指摘する。

## 国家戦略としての

# 公共

## グローバル化時代の インフラ整備を考える

「時間軸思考」と  
「足し算思考」の

欠如が

日本を減ぼす

# 調 達 論

A5判 258頁

定価 1,890円

(本体1,800円＋税)

送料別途

ご好評により 第2刷を  
発行いたしました！

平成22年7月29日  
2刷発行

### ■著者紹介

広瀬 宗一 (ひろせ むねかず)

(財)港湾空港建設技術サービスセンター(SCOPE)理事長兼建設マネジメント研究所  
所長。

工学博士(大阪大学)、M.S.c (Statistics, University of Wyoming)

1950年10月2日生れ

一略 歴一

1975年4月運輸省(現国土交通省)に入省。運輸省・港湾技術研究所(現(独)港湾空港  
技術研究所)、港湾局、港湾建設局、関西国際空港(株)、(財)港湾空港建設技術  
サービスセンター、関西国際空港用地造成(株)、国土技術政策総合研究所などでの勤  
務を経て、2006年6月より(財)港湾空港建設技術サービスセンター常務理事、2009  
年9月より同センター理事長(現職)。

### ■主な内容

●業界の健全な発展を図るための仕組みづくりは発注者の責任●価格競争は  
技術の安売りと技術者の価値の低下につながる危険●垣根を低くして、入札に  
多くの企業参加を可能にするのは責任逃れ●技術力に優れた請負者の選定が  
リスクの多くを軽減する●交通インフラは、ネットワーク全体の機能維持を対象  
に考える●国民が期待するのはインフラ整備の経済効果●落札率の高さよりも、  
むしろ低い方を問題視●弁護士の時給と建設技術者の一日単価が同じ●公共  
事業で蓄積された技術が世界各国で高い評価一

☆ お求めは専門書コーナーのある有名書店か、下記まで ☆

発行: 日刊建設工業新聞社

事務局 〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10

TEL 03-3433-7152 FAX 03-3431-6301

販売: 相模書房

事務局 〒104-0061 東京都中央区銀座2-11-6 竹田ビル

TEL・FAX 03-3542-0660

☆日刊建設工業新聞社 インターネットからもご購入出来ます <http://www.decn.co.jp/>